

年頭のごあいさつ



茨城県知事
茨城県統計協会総裁

竹内 藤 男

新年おめでとうございます。すがすがしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、県民の皆様の方強いご支援、ご協力をいただき、多くの成果を挙げることができました。心からお礼申し上げます。

我が国では、高齢化や国際化、高度技術化が進み、生活の豊かさやゆとりへの志向も強まるなど、大きな社会変化が進んでおります。また、21世紀初頭になると、労働力人口の減少や環境、エネルギーの制約などにより、経済社会を取り巻く情勢は厳しさを増すだろうとも言われております。

このような中で、茨城県が21世紀のリーディング県となるためには、日本のそして世界の重要な交流拠点として発展させ、将来への活力を生み出していかなければなりません。

つくば、常陸那珂、鹿島の三つの拠点都市を中心に世界に誇りうる都市づくりを進めるとともに、県北地域の振興にも引き続き力を入れてまいります。

常磐新線もいよいよ事業化の段階を迎えます。北関東自動車道など新たな高速道路の建設にも弾みがついてまいりました。首都圏の新たな海の玄関として、常陸那珂港の建設を進め、日立港、大洗港、鹿島港の充実にも取り組んでまいります。

快適な環境のもとで生涯を健康で安心して暮らせるよう、福祉の充実と環境の保全も進めなければなりません。

医療、福祉を支えるのは、人です。高度な医療に対応できる看護婦や理学療法士などを育成する県立大学の建設や、在宅福祉を担うホームヘルパーやボランティアの養成、確保も進めてまいります。

霞ヶ浦の浄化は、本県の環境保全の大きなテーマであります。霞ヶ浦導水事業や底泥の浚渫を促進し、生活排水対策として下水道の普及に取り組んでまいります。また、増加するゴミの問題に対しては、減量化や処理施設の整備を促進いたします。

茨城県は、県民の皆様のご不断の努力により大きく発展してまいりました。真の豊かさを実感できる地域社会をつくるため、本年も全力で県政運営に取り組む所存でありますので、ご支援のほどお願い申し上げます。

新年のごあいさつ



茨城県企画部長
茨城県統計協会会長

河崎 広二

新春にあたり、謹んで皆様の御多幸と御健勝を心からお祈り申し上げます。皆様には、日頃、統計行政に対し多大な御支援、御協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年は、7月に事業所統計調査と商業統計調査の同時実施、11月には新規の県民生活地域調査など多くの調査が行われましたが、皆様の多大な御尽力により円滑に実施することができました。深く感謝申し上げる次第であります。

さて、我が国の社会・経済情勢をみますと、高齢化や、高度情報化の進展、ライフスタイルの多様化など急速な変化を遂げようとしており、また地球規模での環境問題など新たな課題への対応が求められています。

こうした中で、本県においては、昨年策定した「茨城県民福祉基本計画」を指針として、21世紀の新しい時代のリーディング県をめざし、県民が誇りを持てる真に豊かな地域社会づくりに取り組んでいるところであります。

この計画を推進するにあたり、厳しい財政状況のもとで効率的な行政運営をしていくためには、正確な現状把握と適確な将来予測が不可欠であり、その基礎資料となる統計の果たす役割は、ますます重要なものとなっている訳であります。

しかしながら統計を取りまく環境は、プライバシーの問題、不在勝ち世帯の増加、ライフスタイルの変化などにより、依然として厳しいものがあります。このため、県としましても、新しい社会情勢に対応した統計調査環境の整備と統計情報の充実強化を図ってまいりたく努力したいと思っております。また、統計思想の普及高揚のため広報活動を強化するとともに、次代を担う青少年に対する統計教育をより一層推進してまいりたいと考えております。

本年も通常の調査のほか就業構造基本調査、全国物価統計調査など各種の統計調査が行われます。どうか皆様におかれましては、統計のもつ社会的意義と重要性をふまえ本県統計事業発展のため、尚一層の御尽力を賜りますようお願い申し上げます。新年のごあいさつといたします。

申(さる)年生まれの人口

平成4年の申(さる)年を迎える本県の年男・年女は、推計で2,221百人(総人口に占める割合7.7%)となっている。

これを出生年別にみると、昭和19年生まれ(48歳)が419百人で最も多く、次いで昭和55年生まれ(12歳)の400百人、昭和43年生まれ(24歳)の398百人の順となっている。また、平成4年に

還暦を迎える昭和7年生まれは330百人となっている。

総人口を十二支別にみると、卯(う)年の2,551百人が最も多く、次いで寅(とら)年の2,509百人、亥(い)年の2,500百人の順となっており、申年は十番目(少ない方から三番目)となっている。

(統計課・人口労働グループ)

表一 1 申(さる)年生まれの人口(推計) — 茨城県 —

平成4年1月1日現在

生まれた年	年齢	男女計		男		女	
		百人	%	百人	%	百人	%
総数	歳	2 221	100.0	1 098	100.0	1 123	100.0
昭和55年(1980)	12	400	18.0	204	18.6	196	17.4
昭和43年(1968)	24	398	17.9	204	18.6	194	17.3
昭和31年(1956)	36	393	17.7	200	18.2	193	17.2
昭和19年(1944)	48	419	18.9	217	19.8	202	18.0
昭和7年(1932)	60	330	14.9	165	15.0	165	14.7
大正9年(1920)	72	200	9.0	77	7.1	122	10.9
明治41年(1908)	84	77	3.4	29	2.7	47	4.2
明治29年(1896)	96	3	0.2	1	0.1	3	0.2

注1) 誕生日を迎えた時の年齢。

注2) 人口は十人、割合は小数点第2位を四捨五入して算出してあるため、内訳の合計は総数と一致しない場合がある。

資料：県統計課「茨城県常住人口調査」

申年の主な出来事

- 明治29年 富士紡績設立、三陸沖に大津波
- 41 第1回ブラジル移民渡航、東京市立日比谷図書館開館
- 大正9 第1回国勢調査実施、日本最初のメーデー
- 昭和7 第1回日本ダービー開催、5.15事件発生
- 19 昭和新山が北海道に出現、プロ野球

休止

- 31 日ソ国交回復に関する共同宣言、東海道線全線電化完成
- 43 県民の日を定める条例公布・施行、三億円事件発生、川端康成にノーベル文学賞授与
- 55 イラン・イラク全面戦争突入、静岡駅地下街ガス爆発、日本体協理事会モスクワ五輪不参加決定

統計インフォメーション No.33から

表一 十二支別人口（推計） — 茨城県 —

平成4年1月1日現在

十二支別	男	女	計	総人口に占める割合	人口順位
子（ね）			2 499	8.7	4
丑（うし）			2 452	8.5	8
寅（とら）			2 509	8.7	2
卯（う）			2 551	8.8	1
辰（たつ）			2 495	8.7	5
巳（み）			2 462	8.5	6
午（うま）			2 215	7.7	11
未（ひつじ）			2 112	7.3	12
申（さる）			2 221	7.7	10
酉（とり）			2 461	8.5	7
戌（いぬ）			2 364	8.2	9
亥（い）			2 500	8.7	3

注）人口は十人，割合は小数点第2位を四捨五入して算出している。

資料：県統計課「茨城県常住人口調査」

平成3年度 統計事務改善研究会開催

平成3年度統計事務改善研究会は、去る12月11～12日に十王町にある国民宿舎「鶴の岬」において統計調査員9名，市町村職員10名の出席を得て開催いたしました。

この研究会は、統計調査に関する意見・要望等の諸問題について研究討議を行い、その改善に資する目的で、県内市町村を4グループに分けて輪番制により、統計調査員と市町村統計担当職員に出席いただき、例年実施しているものです。

統計課からは前田課長始め各グループの担当課長補佐が出席し、意見・要望等について逐次担当補佐が回答をしていく方法で討議・研究を進めていきました。

統計調査の広報，統計調査員の後継者問題，統計調査の方法，工業統計調査の実施時期について

等日頃の統計調査に関する貴重な意見・要望等が数多くござい、今後の統計調査業務の改善のために活発な意見交換がなされ、実りのある研究会となりました。

(統計課・普及指導グループ)



研究会の様相